Book Review

月刊「デンタルハイジーン」別冊
臨床の“？”が“！”に変わる
ペリオ＆インプラントの疑問とエビデンス

大月基弘　編著

AB 判，136 頁
カラー
定価 3,850 円
（本体 3,500 円＋税 10%）
医歯薬出版刊

Reviewer
水上哲也　Tetsuya Mizukami
（福岡県・水上歯科クリニック）

歯科衛生士にとっても歯科医師にとってもこんなにありがたい本はない，と思わせる書籍です．

132 ページの短いページ数のなかで，これほど簡潔に，要点をわかりやく纏められた書籍は他に例を見ません．私たちの日々の臨床は「ところで何故？」といった自問自答の連続です．そしてその回答を得るために，しばしば数百ページに及ぶ書籍のページをめくります．とても大変な作業です．本書ではそれぞれの項目を 3〜4 ページに短くまとめられてあり，かつわかりやすく見やすい臨床写真やイラストで解説されていることが秀逸です．書き手側としての視点からは，臨床の疑問点を何ページにもわたり解説することよりも，3〜4 ページにわかりやすくまとめるほうがむしろ難しい作業です．著者の方々の能力と熱意なくしてはできないでしょう．

ベテランの，経験のある臨床医はともすれば，わずかな成功体験をもってあまりにも多くのことを語ろうとする傾向があることに注意しなければなりません．過去の成功体験は，しばしば私たちの目を曇らせてしまいます．また一方で絶対的な，論文至上主義の考えは，しばしば患者の背景にある物語を犠牲する傾向にあることにも気をつけなければなりません．レビュー論文の多くは決定的な明確な結論が出ないことも多く，しばしば私たちを失望させます．このような実情を踏まえつつ数多くの文献を参照することで，今までなんとなくやってきたことが，実は根拠のない「神話」，あるいは「迷信」であったことに気づかされることが多々あります．また多くの成功体験が「やっぱり正しかったのだ」という確信に変わることもあります．これが私たち日々の臨床の真実の姿なのかもしれません．

本書では代表的な文献をいくつか紹介したのちに，最終的に著者らが考える具体的な数値や方法を偏りなく，公平な判断で示してくれます．たとえば代表的な文献を総括して，SRP 後の再評価の時期は 4〜6 週間が妥当であると示しています．また，PCR を完全に 20%以下に抑えるのではなく，患者ごとに目標設定することが大切だと解説されています．このことは臨床現場に精通した著者ならではのバランス感覚と言えるでしょう．手用器具 vs 超音波スケーラー，デンタルフロス vs 歯間ブラシなどの比較においても，どちらか一方に与するのではなく，それぞれの利点欠点を踏まえて適宜用いることが勧められており非常にバランス感覚に富んでいます．

また，本書では歯周病だけでなく，インプラント周囲疾患や理解しにくい歯周病の新分類に対してもわかりやすく解説がなされています．さらに英語の論文の検索の仕方までわかりやすく説明されています．これを読むと，今まで高い壁であった英語論文が少し近く見えてくるでしょう．そしてまずはやってみることの大切さ，そのためには翻訳ソフトを使用してもなんら問題ないとする考えには思わず拍手したくなりました．

タイトルに書いてあるように，私たちが日々疑問に思っていること，いわゆる「ハテナ？」を「？」と表現したところ，「そうだったのだ」あるいは「そのとおり」，あるいは「よくわかった」といったニュアンスを「！」と表現したところがとても斬新です．

歯科衛生士の方々，そして若い先生方は本書をチェアサイドにおいて是非，日常臨床の迷いを解決するツールにして活用してほしいと思います．